



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第47巻第
10号)

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第47巻第10号). 泌尿器科紀要 2001, 47(10): 768-768

ISSUE DATE:

2001-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/114613>

RIGHT:

4. 論文の訂正：査読審査の結果，原稿の訂正を求められた場合は，40日以内に，訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて，前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること，なお，Editor の責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
6. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
 - (1) 掲載料は1頁につき和文は5,500円，英文は6,500円，超過頁は1頁につき7,000円，写真の製版代，凸版，トレース代，別冊，送料などは別に実費を申し受ける。
 - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は30,000円，6頁以上は1頁毎に10,000円を加算した額を申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果，測定試薬の成績，治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については，掲載料を別途に申し受ける。
7. 別冊：実費負担とし，著者校正時に部数を指定する。

Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, key words (no more than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer · PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, the director's name, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details, refer to a recent journal.

編 集 後 記

昨年末の編集後記で，20世紀は「科学技術の世紀，戦争の世紀，スピードの世紀」であったと書いた。しかし21世紀最初の年である2001年は，皮肉にも「まだ戦争の世紀は終わっておらず，テロリズムという新しい戦略が実行に移された」年として歴史に刻まれることになってしまった。今回の炭疽菌事件を含むテロリズムは（本原稿を書いている段階では炭疽菌とテロリズムとの関係は証明されていないが），20世紀において発展した科学技術と情報通信技術（スピード）を駆使した戦略を用いており，高度に近代化された都市の基盤を狙うという意味でも従来のテロリズムとは異なった次元のものと考えられる。

テロ攻撃そのものは決して許されるものではないが，このテロリズムの背景を知ると，宗教や民族，歴史観が違えば，事態の解釈にはこれほどの差が生じるということにいまさらながら驚かされる。理不尽なテロリズムでも，解釈を変えると聖戦（ジハード）になる。テロリズム抑止を目的とする報道も，一般市民を巻き込んだ場合にはテロリズムとどう違うのだろうか。

グローバル化が声高に叫ばれる現在，価値観の一元化には警鐘を鳴らす必要があろう。アメリカ全土に星条旗が翻り，愛国心を鼓舞する演説が繰り上げられる光景に，なにか違和感と恐ろしさを感じるのは私だけだろうか。

（小川 修）